

自慢はスタッフの充実度 働きやすさで質を向上

東

京都の南町田駅から徒歩6分。閑静な住宅街の中に立つのが、合掌苑が運営する「鶴の苑」だ。

歴史は古く、ホームの理念は昭和20年代、東京大空襲で焼け出された人の世話を寺でしたこと始まる。以来、仏教の慈悲の精神に基づき人の尊厳を守る意思を持ちながら運営を続けてきた。

そんな鶴の苑が何より大切にしているのは、介護スタッフのモチ



スタッフの働きやすさが何より介護の質につながる。専門フロアでの認知症ケアも特徴

ベーシジョンだと、お客様相談室の神尾昌志氏は強調する。

スタッフの働きやすさは利用者の満足度に直結する。例えば、連続10日の休暇を年2回取得できるなど休みが多く取れるほか、スタッフ同士のコミュニケーションを重視し、月1回以上は上司と部下が面談を行う。採用時には、内定前に最低5回はホームを見学してもらい、理念に共感した人だけが入社できるという。

その結果、離職率は10%を切るなど低く、スタッフの平均年齢は40代とベテラン層が厚い。こうしたゆとりから生まれる心温まる熟練のサービスが何よりの魅力だ。

ホームには、自立生活を希望する人向けの住居フロアと、介護・医療が必要な人向けのフロアがあり、ニーズに応じて入居可能。さらに、最先端の手法で支える認知症専門の「スペシャルケアフロア」があるため、重度の認知症であっても心安らぐ暮らしができる。